

離床実施における患者への説明に関する調査報告

医療行為に対するインフォームドコンセントの重要性が言われて久しいが、離床については、患者や家族に十分説明された上で実施されているかは不明なのが現状である。今回、離床を行っている医療スタッフに離床実施における患者への説明に関する調査を実施したので報告する。

方法

調査期間：2016年11月19日～2016年11月23日
 調査対象：日本離床研究会教育講座の参加者のうち回答の得られた704名
 対象職種：看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
 調査方法：質問紙法（配布）

●設問

Q1 離床について十分説明できていると思いますか？（どれか一つ選択）

●回答選択肢

十分できている・まあまあできている・どちらともいえない・あまりできていない・全然できていない

●設問

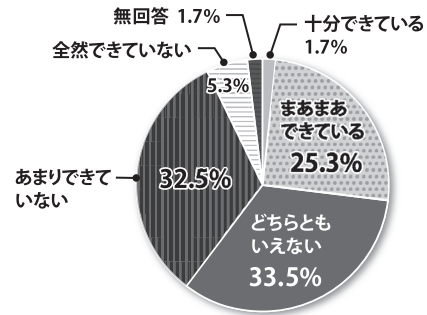
Q2 Q1で「あまりできていない」「全然できていない」と回答された方に伺います。その理由は何かですか？（複数回答可）

●回答選択肢

説明する必要がないと思う・他の人が既に説明している・説明する時間がない・説明する教育を受けていない・離床について患者に説明するのは難しい・その他

結果

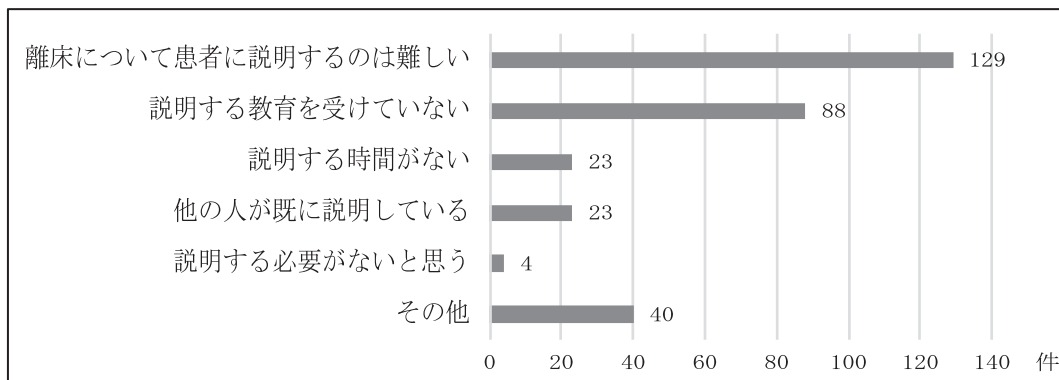
- ・アンケート回収総数 704
- ・有効アンケート総数 692



結果1 離床について十分説明できていると思うか

考察

結果より、説明が出来ていると回答したスタッフは3割未満であり、多くは十分説明ができていないと感じている現状が明らかとなった。要因としては説明の困難さや、教育の問題が多かった。これらに関しては、医療知識のない患者や家族でも離床の必要性やリスクをわかりやすく説明するリーフレットがあると解決することが可能と考える。この活用により、説明する内容が明確となるため、説明して同意を得てから離床するという文化が形成され、現場で教育する流れも構築できると考えられる。スタッフにとっては、離床が当たり前であっても、患者や家族は起こされることに不安を感じているため、しっかりと説明することが重要である。



結果2 説明ができていないと感じる理由

著者情報：飯田 祥 * 黒田智也 * 土屋 研人 * 曷川元 *
 *日本離床研究会 学術研究部